第１号　　2023（令和5）年6月15日発行

発　行　小野友五郎を伝えてゆく会
事務局　〒309-1626
茨城県笠間市下市毛222の5
TEL 0296-72-5104　FAX0296-72-5115
H　P　https://tomogorou.com
Eメール　tomo56@eco.ocn.ne.jp

**笠間の友五郎から
日本の友五郎へ**

◆ ごあいさつ　◆ 友五郎よもやま話
◆ 私の一品　◆ 小野友五郎伝
◆ 友五郎の足跡を訪ねて　小笠原諸島
◆ 会員の声　◆ 事務局だより　◆ 編集後記

友五郎を顕彰、功績を後世へ

伝えてゆく会　組織を整え新たな船出

咸臨丸の航海長をはじめ幕末から明治にかけて活躍した笠間藩出身の小野友五郎の功績を広く理解してもらおうと昭和造園土木（笠間市）の杉田捷機会長が二〇一〇年に立ち上げた「小野友五郎を伝えてゆく会」は、昨年十月にあらためて組織や役員体制を整え、顕彰事業や調査研究に力を注ぐことになりました。

新たな船出となった「伝えてゆく会」の会長には引き続き杉田さんが就任。顧問に山口伸樹笠間市長、塙東男笠間稲荷神社宮司らを迎え、作家の鳴海風さんや友五郎の末裔にあたる方々には名誉会員に就任していただきました。

会では今後、友五郎の遺徳顕彰事業、講演会や企画展、資料の調査研究、小中学生対象の講座などを実施していくほか、ホームページや会報、各事業を通じて広く会員を募集してまいります。

ごあいさつ　小野友五郎を伝えてゆく会　会長　杉田捷機

幕末から明治の日本で偉大な功績を残しながら意外と知られていない侍がおります。名は小野友五郎です。笠間藩の下級侍の息子が努力に努力を重ね、幕府の勘定奉行まで昇りつめました。

混迷する時代に二度渡米し、自身の目で見た西洋文明を黎明期の日本に導入し近代国家建設に大きな影響をもたらしました。世のため人のため実直に生きた侍です。しかし残念ながら歴史の中に埋もれてしまっております。

知る人ぞ知る友五郎ですが、昨年、友五郎二〇五歳の誕生日に「小野友五郎を伝えてゆく会」の組織を拡大し新たなスタートを切り、本年四月からさらなる顕彰活動を開始しました。友五郎の知名度も上がっております。彼の功績に光を当て、笠間の友五郎から日本中にその名が知れ渡ることが夢であります。皆様のさらなるご支援、ご協力をお願いいたします。

会の新たな船出に寄せて

笠間市長　山口　伸樹

笠間藩士である小野友五郎は、日本初の太平洋横断をした咸臨丸の航海長として知られています。友五郎は笠間藩算術世話役の甲斐駒蔵の和算塾に入門し和算を学び、努力を重ね、才能を生かして、下級藩士から幕臣となり、軍艦頭取や勘定奉行並などの幕府重職まで勤め上げました。また、勝海舟らとともに長崎海軍伝習所へ派遣された時には、航海術や天文学、西洋の微分積分などを学び、後に太平洋横断や小笠原諸島の実測図作成を成し遂げました。晩年は、鉄道敷設の事業に携わり、製塩業の発展にも尽くすなど、その功績は多岐にわたりました。貴会の活動を通して、このような偉大な功績を残した地元出身の偉人である小野友五郎が広く後世まで伝えられていくことをご祈念申し上げます。

（当会顧問）

作家　鳴海　風

現代と違って世界で何が起きているか分からなかった鎖国の時代、小野友五郎は笠間が生んだ最初の国際人です。イギリスによる清国侵略であるアヘン戦争が始まった翌年、友五郎は藩の指示で江戸へ出ました。やがて日本は、来航したペリー提督の圧力で開国しましたが、侵略の脅威はなくなりませんでした。友五郎は、今度は幕府の指示で、長崎でオランダ人から海軍技術を学び、咸臨丸航海長として渡米しました。帰国後は、蒸気軍艦の設計、海防論の執筆、造船所建設に協力、さらに軍艦購入使節のリーダーとして再渡米するなど、日本海軍創設のために活躍しましたが、それは国を守るためでした。外国に侵略されることなく明治を迎えると、友五郎は、鉄道敷設のための測量や事業性評価で貢献しました。激動の幕末から明治維新にかけて、世界の実情を知っていて卓越した技術を持っていた友五郎の存在は大きいものでした。

（当会名誉会員）

笠間稲荷神社宮司　塙　東男

小野友五郎を伝えてゆく会の新たな船出と会報発刊にあたり、ひとことお祝い申し上げます。笠間藩士の友五郎は幼少期より算術、和算に秀で、天文学や測量術、航海術を学び身に付けていきました。遣米使節の護衛軍艦の咸臨丸の航海長として太平洋横断の任務を果たすとともに、明治維新後からは鉄道建設に関わり、測量に尽力しております。晩年には製塩業にも手を広げており、江戸時代末期から明治時代にかけての動乱の世の中を社会のために働き通しました。笠間の偉人として顕彰してまいります。本会のご発展と杉田捷機会長のご健康とご活躍を祈念してご挨拶といたします。

（当会顧問）

サザコーヒー会長　鈴木誉志男

私はひたちなか市のコーヒー屋です。生涯学習として、江戸時代にコーヒーを飲んでいた人、江戸っ子から蘭癖（らんぺき、オランダの習俗を憧憬、模倣するオランダかぶれ）と呼ばれた茨城人を探し調査するのが趣味です。笠間の小野友五郎、日立の蘭方医柴田方庵、古河藩の鷹見泉石は江戸末期にコーヒーを飲んでいました。なんと杉田捷機さんが小野友五郎の研究をしていることを知りました。旧知の杉田さんが友五郎の研究をしていたことにビックリしました。早速、多くの資料を頂き、速いスピードで（初めてアメリカンコーヒーを飲んだサムライ・小野友五郎珈琲物語）を完成することが出来ました。友五郎は三人の蘭癖の中で、サンフランシスコ、ニューヨーク、ワシントンで一番多くコーヒーを飲みました。このようなご縁で笠間焼が好きな私は小野友五郎の応援団に入会しました。

（当会理事）

友五郎よもやま話

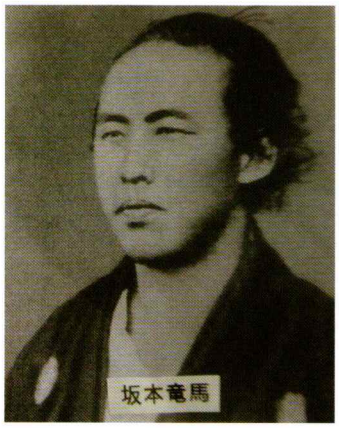
笠間にあった友五郎の位牌

昨年四月に笠間市で開催された「咸臨丸にかけた夢小野友五郎」という講演会が開催されました。コロナ禍の中の講演会でありましたが多くの方々が参加され、中身のある講演会でした。

休憩時間に私を訪ねてこられた中年の女性がおりました。その方は市内に住んでおり、自分の家の仏壇に小野友五郎の位牌があるので見てほしいということでした。正直、少し驚きました。後日、私の事務所で見せてもらうことにしました。見せていただいた位牌には小野友五郎の戒名と名前が記されていました。当家の菩提寺の住職に聞いても分らず、なぜ、その方の家にあるのか不思議でした。

数カ月後、国立国会図書館のデジタルコレクションで友五郎の探し物をしていたところ、偶然にも次のようなことが書かれておりました。「小野友五郎は文化十四年十月二十三日常陸の国笠間に生まれる。牧野氏の臣、小守庫七の第四子なり、母は同藩士飯田氏の二女なり」とありました。位牌にあった家は友五郎の母親が出た家でした。

これで位牌の謎は解け、小守家と飯田家の親戚関係も分かりました。ちょっとしたきっかけがこのように物事を解決してくれます。ちなみに友五郎の戒名は観月院殿塩翁広胖居士です。（杉）


坂本竜馬

友五郎は龍馬の師であった？

一八五七年三月、友五郎は長崎海軍伝習所の研修を終え、蒸気艦観光丸を日本人のみで操縦して江戸に戻りました。七月に出来たばかりの築地の海軍学校「軍艦操練所」の教授になりました。矢田堀景蔵が教授方頭取となり、五名の教授方でジョン万次郎もその中の一人でした。

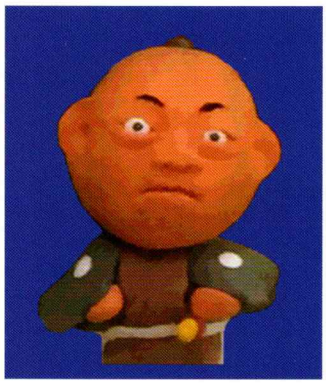
一八五六年八月、坂本龍馬は剣術修行のため、再び武市半平太、大石弥太郎らと、江戸築地にあった土佐藩中屋敷に寄宿し、千葉道場で剣術修行をしています。龍馬はこの年、師である勝海舟の勧めで近くにあった「軍艦操練所」に出入りしています。軍艦の運用術や航海術などを学ぶことが目的であったと思われます。当然、小野友五郎は坂本龍馬にそれらを教授していたと考えられます。「友五郎と龍馬は師弟関係であった」、現時点では証拠となる記録はありませんが、確率は高い話ではあります。（菅）

私の一品

元笠間市勤務・書家
大録　匡行

粘土で小野友五郎像を作ってみた当時、茨城県内各地の神社に「和算額」が奉納されていると聞いて、那珂市や大原の神社を覗いていました。江戸時代に寺子屋があって、さまざまに学ぶ人が多く、世界中で最も識字率、数学の能力を高めていた日本。その代表が小野友五郎かと思いました。鋭い目をして、妥協なく学び続けるその姿を多くの人にも知って欲しいと思います。（小野友五郎人形制作者）

小野友五郎人形



小野友五郎伝 1

杉田　捷機

常陸の国、笠間藩に生まれ、混迷する幕末期の日本のために大変活躍した侍がいます。大きな功績を残しながら意外と知られていない侍です。名は小野友五郎。笠間藩八万石の藩士小守庫七宗次の四男として、一八一七年（文化一四年）一〇月二三日に笠間に誕生しています。生家は現在の笠間市雁間地区にありました。

小守家から小野家へ

生家の小守家は一代抱えの下級藩士で長兄の七郎兵衛が家督を継ぎ、次兄卯之吉、三兄為五郎はそれぞれ養子に出ています。友五郎の幼少時の記録はほとんどありません。友五郎は一一歳の時に実父を亡くし、長兄の七郎兵衛の厄介になっていました。一五歳から笠間藩の算術世話役である甲斐駒蔵に師事して和算を学び始め、一七歳の時に同じ笠間藩士の小野柳五郎家に養子として入りました。

友五郎が学んだ和算とは元来、中国から伝来し江戸時代に発達した日本独自の数学で、土地の面積や体積を計算したりする学問です。友五郎の師、駒蔵の下で一般算術を学び、地方算法その中でも特に量地術について学んでいます。地方算法とは藩政に必要な租税、土木治水工事、量地測量などを行う数学です。師の駒蔵は笠間藩内の子弟に和算を教えながら、自ら江戸の長谷川算術道場に入門し研鑽を積んでいました。

当時の笠間藩主は牧野貞一。藩内は農作物が不作で飢饉の状態が続き、困窮の時代でもありました。友五郎は藩の職務が終わると、夕方から駒蔵の塾に通い、雨の日も雪の日も休むことなく、寝る時間を惜しんで駒蔵の教えを受けたと言われています。持ち前の勤勉さと努力により友五郎の才能は大きく成長して藩内でも誰もが知るところとなりました。

江戸詰め勤務に

友五郎は二〇歳で小野家の家督を相続し、坊主格寺社方手代として三両二人扶持を支給されました。これは笠間藩士の中でも最も低い地位でした。しかし日頃の生活態度や熱心に勉強する姿などから、一八四一年（天保一二年）に江戸の笠間藩下屋敷の元〆手代勤務を命じられました。これは財政畑の専門職です。二四歳の時でした。

友五郎にとっていよいよ江戸で勉学を磨く時がきました。四年ほど独学で勉強したのち一八四五（弘化二）年、二九歳の時に師の駒蔵と同じ長谷川算術道場に入門します。一八五一（嘉永四）年の長谷川算術道場の社友列名では、師の駒蔵とともに伏題に名を連ねています。翌年、駒蔵、長谷川善左衛門らと共に量地図説という土木工事や治水工事、地図作成などに使われる測量の方法を記した測量の専門書を二冊刊行しています。その年の一二月には幕府天文方に出役しました。この頃に習得した測量学、天文学が後々の仕事、功績につながっていくのです。

友五郎は三一歳の時、上総国八幡村（現在の千葉県市原市）の郷士の娘津多と結婚しました。

（つづく）

友五郎の足跡を訪ねて

小笠原諸島

井坂　幸雄

鶯の　声聞き乍ら　行き暮れて
これや初音の　港なるらん

友五郎が小笠原で詠んだ一句

友五郎ら咸臨丸乗組員が上陸したとされる初寝浦。句では初音

東京から南へ約一〇〇〇キロ、小笠原諸島は小野友五郎ゆかりの地である。伝えてゆく会の杉田捷機会長、菅原一彦副会長と共に今年三月、クルーズ船「にっぽん丸」に乗り小笠原へと向かった。

小笠原諸島は一五九三(文禄二)年、小笠原貞頼により発見されたと伝えられる。その後は米国などの捕鯨基地となっていたが、幕府は領有権を得るため一八六二年一月(文久元年一二月)、小笠原に調査団を派遣。渡航には一八六〇年に日本で初めて太平洋を渡った咸臨丸が使われた。友五郎は軍艦頭取としてメンバーに加わり、航海ばかりか現地測量の陣頭指揮を取り、出来上がった測量図は小笠原が日本固有の領土であることを示す根拠となった。

咸臨丸は現地まで一週間ほど要したが、大型船による今回の船旅では大洗から片道四〇時間。途中、友五郎とも関わりの深いジョン万次郎が遭難し漂着した鳥島や鯨の潮吹きを見ながら、三日目の朝、父島に到着した。

現地では早速歴史ツアーに参加し、江戸時代からの歩みを記す史跡や太平洋戦争時の戦跡を訪ねた。

小笠原貞頼を祭った小笠原神社境内には、小笠原開拓碑や小笠原新治碑などがあり、開拓史を記す貴重な文化財と位置付けられている。新治碑は友五郎らが調査に訪れた際に咸臨丸で運ばれてきたもので、小笠原の発見、開拓時の由来が記されている。日本領土であることを示す碑として建立され、高さ二三六センチ、幅一一三センチ、厚さ一四センチあり、当時どのように運んだのか、そんな興味も抱かせる大きな石碑だった。

小笠原新治碑の説明を受ける

咸臨丸から上陸したとされる浜辺や咸臨丸墓地も訪ねた。当時、小笠原には捕鯨の関係で欧米や太平洋諸島の人々が居住していたが、幕府から派遣されたメンバーは現地測量と併せ、島が日本に帰属することや開拓を進めることを居住者らに説明したという。咸臨丸で訪れた乗組員一人が現地で亡くなっており、ほかの船で遭難し漂着した人たちと共にこの墓地に葬られている。

小笠原の歩みや友五郎、咸臨丸との関わりを見聞きした三人は、小笠原村役場の教育委員会を表敬訪問した。残念ながら島の名物ウミガメ料理を堪能することはできなかったが、自然豊かな小笠原で充実した二日間を過ごすことができた。

メモ　小笠原諸島

父島、母島、硫黄島、沖ノ鳥島、西之島など大小30余の島々で構成。大陸と地続きになったことがなく、多くの固有種、希少種がおり、2011年世界自然遺産に。人口2500人余。

会員の声

友五郎に学ぶ

大久保圭介（牛久市在住）

茨城に生まれ、苦学の末に幕末・明治に偉大な功績を残した小野友五郎。彼から学び得ることは数多い。努力の人であり、また実行力の人である。地元でもあまり知られてない彼の名前や功績を伝えることにより、努力することや学ぶことの重要性を人々に伝えることができれば幸いだと思います。今後の小野友五郎を伝えてゆく会の活動に期待します。

ふるさと笠間の自慢

柴沼　武（埼玉県在住）

私は終戦の年に笠間に生まれ小中学生時代を笠間で過ごしました。その後は故郷を離れ、東京での生活であまり笠間の歴史などを考えたこともありませんでした。ある時、小野友五郎という凄い侍のことを知り数少ない書籍を見つけ何度も読み返しました。あれだけの功績を上げながらあまり知られていないことが不思議でした。時代の流れに乗り上手に立ち振る舞った者が英雄視されている。幕末史の中で彼のやったことは実に偉大です。日本海軍の父、鉄道の父と言われても決して大袈裟ではありません。この会が小野友五郎を全国的に知名度を上げて、わが故郷に小野友五郎ありと自慢できるよう協力してゆきたいと思います。

友五郎の輪を広げよう

宮本　正（土浦市在住）

笠間市にこの会があることを知り早速、入会させていただきました。私は鉄道マニアです。昨年は日本の鉄道開通一五〇周年で日本中が沸き立ちましたが、なぜ友五郎の名が出てこないのか不思議でなりません。日本の鉄道史の基礎は小野友五郎の測量から始まったのです。東海道線、東北線など数え切れません。正直者が馬鹿を見るという言葉がありますが、その通りです。日本のために正直に働いた友五郎の輪を広げましょう。

事務局だより

新たな体制となった当会の新役員会は昨年一〇月二三日に開かれ、名誉会員に就任していただいた歴史小説家の鳴海風氏、友五郎末裔の湊正雄氏、相澤清晴氏（東大教授）岩瀬光氏（ひ孫）、顧問の山口伸樹氏、塙東男氏にご臨席を賜りました。ありがとうございました。

新役員は左記の通りです。

会　長　杉田捷機
副会長　今泉　寛　菅原一彦
事務局　石崎文夫　井坂幸雄
会　計　鈴木正平
理　事　和田芳武　鈴木誉志男
　　小松崎衛　山口一樹
　　橘川栄作　友常千秋
　　鈴木要一　新名喜久夫
顧　問　山口伸樹　塙　東男
　　南　秀利
名誉会員　鳴海　風　岩瀬　光
　　相澤清晴　湊　正雄

編集後記

○　役員会の中で、会報の役割を「情報交換を推進させ、連帯感を育む」ものとして正確で詳細な情報の提供と会員同士の交歓等も考慮してゆくことの意見あり。

○　次年度の取組について、更なる会活動の活性化を図るべく会員の皆様の提言をお待ちしています。

○　最後に、「特集記事」をはじめ「友五郎よもやま話」「会員の声」に寄稿してくださった皆様に厚く御礼申し上げます。（石）

会員募集中

本会の趣旨にご賛同くださいます個人、法人及び団体の皆様のご入会をお待ちしています。

下記アドレスまたはQRコードより、ホームページ「入会のご案内」をご覧ください。

https://tomogorou.com